

平成 27 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■東根地区：7月24日（金）午後7時30分～9時 参加者 64名

Q. 地方創生は、地域資源を活かし、仕事づくりをすることと捉えている。その点において山林を再生させて資源を利用していくことは大事なこと。防災の面からも大事なこと。白鷹型住宅の推進など白鷹産材使用の推進もできる。手始めとして庁舎等整備は望ましく、無垢材で建ててほしい。無垢材率を何パーセントぐらいで、建設しようと考えているのか。

A. 具体的な数値をお答えすることはできないが、基本設計を担当する業者へはできる限り町の木材を使ってもらうように要望を伝えている。集成材利用と無垢材のような製材品利用とあるが、そのようなことも踏まえて庁舎の建設については、設計業者の考えをお聞きし町で検討していくことになる。地域資源、森林を活用した産業振興のためにも所有者を確定する森林境界明確化事業にも取り組んでいる。

Q. ぜひ無垢材利用率を明確に指示してほしい。木材を使う場合は、材木を切って、乾燥させて、製材に回すまで時間がかかるため、予算措置のことも考えたときに、ぜひ分離発注方式を取り入れてほしい。

A. 製材品利用の中で豪雪地における構造体について検討してもらおう。発注方法については様々あるが、分離発注方式を取り入れている鶴岡市の場合は10年以上の実績があるため、ほとんど実績がない白鷹町でも同じことができるかはわからないし、ほかに良い方法があるかもしれないので検討していく。

Q. ①複合施設整備について、昨年の座談会での説明では予算のおおよその数字が出てきたが、その数字は今年も変わっていないのか。

②防災センターが建設された場合、中央公民館という名称は無くなってしまうのか。

③基本設計業者の選定には、町内の設計業者も含まれているのか。

④プロポーザルの選定方法について教えていただきたい。

⑤町民会議のメンバーの構成はどのようになっているのか。

A. ①基本構想時の価格は、あくまで概算の価格であるということを理解していただきたい。基本設計、実施設計と進んでいく中で、できるだけコストを削減したような施設にしていかなければならないと考えている。

②中央公民館の機能をもった名称については、今後どうしていくか検討していく。

③設計業者のプロポーザルにあたっては、白鷹町の業者を含め、山形県、東北、関東、

甲信越地域までその範囲を広げているが、規模が大きいとの理由から、町内の業者で手をあげたところはない。

- ④プロポーザルの選定方法については、それぞれの業者に企画を提案していただき、町の考えに沿っているかを判断する。また、技術や能力についても実績を見させていただいて、選定の評価をする。ただし、提案してもらった企画がそのまま採用されるわけではなく、そこへ町民からの要望を入れていただきながら、来年の3月までの期間で基本設計をつくってもらう。
- ⑤町民会議のメンバーについては、できるだけ防災センターや中央公民館、図書館での利用経験がある方に加えて、庁舎の使い勝手などの意見をいただける町民の方をメンバーとして、今から検討を進めていく。

Q. 複合施設整備について、どのぐらいの額で考えていて、財政的にどのように賄おうとしているのか、そしてそれをどのように軽減できるのか、具体的に説明していただきたい。南陽市の文化会館は集成材でつくられたそうだが、最終的に当初予算の1.5倍になってしまって、非常に市の財政負担になっていると伺っている。せっかく立派なものができるけど、その後町の人の生活がひっ迫していくようなものでは良くないし、人口が減少し続ける白鷹町で、あちらこちらに新しいものができる使わなくなるのではとの、町民の心配もあると思う。31億という予算を使って複合施設をつくるのであるならば、財政をどのように補てんし、それをどのように拡大せずにやっていくかを説明していただきたい。

A. 基本構想をつくったときには、概算事業費31億という数字になっている。このうち、建物を建てる部分が21億となっており、この部分が軽減できないかという話になる。ここで、いくら軽減できるかは言えないが、特に人件費の部分において設計業者と意見を交わしながら、できるだけ低コストにしていきたいとお願いしたい。また、建物をつくるにあたっては、基本的に起債もしくは交付金を使う。林野庁では、木造公共施設をつくる場合に交付金を出しており、予算的な枠組みの中で事業費の最大1/2までは交付金措置ができるので、県も含めて交渉していく。

- Q. ①統合した白鷹中が順調にいらっていると話をお聞きしたが、廃校になった鷹山小あるいは西中、こぐわ保育園、あゆかい保育園の跡地利用について、どこまで話が進んでいるのか。
- ②まちづくり複合施設の活用について、防災センターは非常時に災害対策本部機能を持ち、消防分署は災害時の本部としての機能を持ち合わせるとのことだが、災害時におけるの本部は一つであるべきだと思う。

A. ①跡地利用については、現在庁舎内にワーキンググループを設置して検討を進めてい

るが、具体的な結論はまだ出ていない。旧こぐわ保育園については、現在企業に貸し出して利用していただいている。また、旧あゆかい保育園については、障がいをお持ちのお子様方の放課後クラブとして利用いただいているわけだが、建物の老朽化が進んでいる状況なので今年度末あたりが最終年度となる予定である。旧かわしも保育園については、現在下山区に指定管理制度として利活用を含めて管理いただいている状況であるが、今年度末で指定管理期間が切れるので、今後の対応について検討していきたいと考えている。旧西中学校については、企業立地を考えていたがなかなか進んでいない状況であった。しかし、5月の下旬に社会福祉法人白鷹福祉会の方から町の遊休資産の利活用についての要望がでた。具体的には、白光園の改築を予定されているとのことで、それらを含めて検討を進めている状況である。旧鷹山小学校については、立派な施設で老朽化も進んでいない状況であり、体育館とグラウンドについては一般開放をして4月から利活用いただいている。校舎等については、できるだけ学校施設の機能を利用した跡地再利用をベースに検討しており、校舎等も大きいため、分割した利活用なども含めて検討を進めていかなければならないことから、ワーキングの方で検討を進めている。

②災害時の本部機能については1か所であり、現在は役場2階の総務課を中心としたところで消防分署と連携して形成している。新しい防災センターをつくることになれば、センターの中に災害対策本部を設置できるスペース、あるいは一時的な避難ができる状況を含めての整備ができるのではと考えている。

Q. 25年度の災害時には消防分署に本部を、26年度の災害時には防災センターに本部を置くというように、本部がころころ変わるということなのか。

A. 基本的には庁舎棟と防災センターを併設する予定なので、そこが災害時の本部機能になるということで一次的には考えている。しかし、この防災センターの機能には災害時の非常時の避難所として利用できるような機能を設けたい。それから、災害時の応急物資の保管場所としてのスペースの確保も検討している。

Q. 広野の根子町の通学路のところで、以前はバイパスを横切っていたが、交通量が多くなったということで、現在は農道を利用している。しかし、農道には歩道がなく危険な状況である。バイパスの西側には歩道があるため、そこを通学路としてお願いしたいのだが、現在は東側だけしか除雪されていないので、除雪を含めて通学路の確保をお願いしたい。

A. 国道287号線のバイパスの歩道に関しては、荒砥から広野のファミリーマートの交差点までについては、東側のみ除雪されているが、建設水道課と県の方に要望をさせて

いただいた。県では除雪について検討したいとのことだったので、その回答を受けながら、児童生徒が冬の間、安全に通学できるような形を確保していきたい。

- Q. 豚舎の悪臭問題について、経営者が変わって豚の頭数も増えてきたせいか悪臭が漂ってくる。建物に換気扇がついている部分があるが、特に夏場に換気扇を回すということであった。換気扇を回すのはよいが、出す空気をどうにかしてほしいので、解決策を検討していただきたい。
- A. 経営者である米沢三元豚株式会社と町、それから地元のみなさんと、東根環境保全会議ということで、四半期に一度定例会を開いている。また、現地の視察などを行って改善点を指摘して、改善できるところから行っていただいている状況である。換気扇そのものが取れてしまっているところや、穴が開いてしまっているところなどは順次補修を進めると伺っている。換気扇の中では特に離乳豚舎のおいがひどいということで、換気扇にネットをつけて水を流す工事をしている。また、たい肥舎の方にコンポストを新設したわけだが、その空気を脱臭層の方に入れるように工事をしている。生産については、8月10日ごろから出荷をしたいとのことだったので、だいぶ豚が入ったのかと思う。業者の方ではさまざまな対策をしているが、現在は、出荷前の収入ゼロの状態のため、今できるところから順々に進めさせてもらいたいというお話をいただいている。いずれにしても、随時意見交換を行いながら、一緒になって改善の方策を探っていきたいと考えている。
- Q. 東根小学校の前に、浅立の子どもたちが利用している山交バスのバス停があるが、バスは山形から来るため、時間が遅れたり、子どもたちがいない場合には素通りして行ってしまう。また、バス停には屋根付の待合所等がないため、冬期間の吹雪の時でもそこで待っているしかないという状況なので、待合所の設置をお願いしたい。
- A. 待合室については要望をいただいていたとおり検討を進めている。ただし、山交に確認したところ、長距離のところについては「山交バスナビ」ということで、インターネットを通じて何時何分に通過をする予定、または通過したという情報をリアルタイムで確認できる状況になっているとのことであった。これをうまく使えば、バスが到着する予定の時間に合わせて学校を出られるため、待合室よりも暖かい場所で待つことができるので、「山交バスナビ」を活用していくことも含めて今後も検討を進めていきたい。